

私は昔から宮沢賢治の作品が好きだった。

「注文の多い料理店」ではぞっとさせられ、「よだかの星」には涙した。「雨ニモマケズ」に励まされ、「銀河鉄道の夜」には考えさせられた。彼の作品によって、私という人格は形成されたといってもいいほど、大好きな物語ばかりだ。

先日の国語の授業で、「永訣^{えいけつ}の朝」を読んだ。賢治のよき理解者であった、妹トシとの死別について描かれている。

この詩に出てくる「雪」は、とても大切な役割を果たしている。妹から賢治へ、自分が死んだ後も幸せでいてほしいという祈り。賢治から妹へ、死に際の彼女の幸せを願う祈り。そういった思いが込められている。

宮沢賢治の生まれ育った岩手は、雪でいっぱいだったろう。私の心も、彼の描く「雪」で満たされている。

(伊佐市)